

ゴルフ部

設立	1959年
部長	朝倉 浩一(応用化学科)
現在の部員数	42人(2013年9月現在)
OB/OG 会代表者	河合 輝欣
OB/OG 会会員数	285人
URL	http://www.kegc.net/

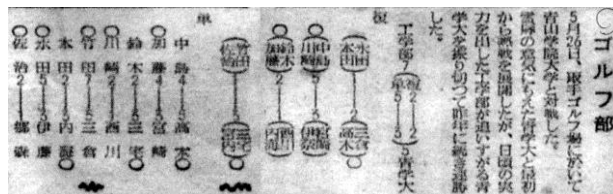
創部当時

20期(永田、川崎、佐治、本田、中島)

1959年当時、同好会の三田グリーンクラブがあったが、工学部は三田の地から遠く離れた小金井にあり、活動するためには距離的に無理があった。そこで、永田(初代OB会会長)等が2年のときに一期下の21期生にも声を掛け10名で同好会としてスタートした。間もなく工学部体育会の部として承認され、活動を開始した。実は「体育会」の名を背負ったのは現在の塾体育会ゴルフ部より先だったのである。

練習はラウンドが中心で、最初の合宿は那須ゴルフクラブで行われた。そこでは小針春芳プロにコーチしてもらったのであるが、大松がソケットして危うく小針プロに当たりそうになったことがあった。合宿は夏と春に行われ、基本は1日2ラウンドであった。しかし湯河原カンツリクラブでの合宿では朝食前に1ラウンドし、その後2ラウンド、合計3ラウンドも行った。費用は1泊3食プレー付で千円であった。その他に立川国際カントリークラブや、鬼怒川カントリークラブにもお世話になった。また、霞が関ゴルフクラブでも月例会を開催したことがあった。当初トレーニングも行っていたが、非常に厳しくまた用具にも問題があったため怪我人が続出したことから無くなったのであった。永田が部のまとめ役でゴルフも上手であったが、特にマナーに関して厳しく指導していた。これが後に社会人になってから大いに役立つことになった。

創部当時ゴルフは一般的ではなかった。そのためクラブはお下がりや、質屋で入手したセットで、初めからフルセットを持っている部員はいなかった。また、初心者が多くルールはもちろんのこと、ティーグラウンドから、どのクラブでどこに向か



青山学院対抗戦の結果
(1961年6月17日工学部新聞)

って打てばよいかなど、基本から教えなければならなかった。

また、大根カントリークラブのプレーフィが三百円のときに、ゴルフボールも三百円であった。そのため、ボールを池に入れることはペナルティを課せられるだけでなく、相当な金額を池に投げ捨てるような行為で、現在の環境とは比べ物にならないものであった。他大学の理工学部にはゴルフ部・同好会が無く、青山学院大学・一橋大学・成蹊大学のゴルフ部や慶應医学部に定期戦をお願いし、ほとんど負けたことがないほどであった。

21期(加藤、鈴木)、22期(河合)

部長森為可(電気工学科教授)が御殿場の別荘を貸してくれるので合宿をすることになった。鈴木信男(キャプテン)と私、加藤(サブキャプテン)で、「先生の言うことだから確かだと思うが、一応別荘を下見に行こう」ということになった。そうしたところ布団をはじめ何もなかった。急遽、十数人分の布団を手配し間に合わせた。合宿1週間前の下見のおかげで、何とか合宿がうまくいったと思った。もし行かなかつたら、どうなっていたのだろうかという、苦い思い出であったが、今となっては良い思い出である。

私、河合にとって一番楽しかった思い出は、やはり合宿である。

合宿は夏の暑いときにバッグを担いで、先輩に厳しいことを言われながら、右に行ったり左に行



1963年3月27～31日
御殿場富士CCクラブハウス前で

ったりぐるぐるしながら回った。そのとき学んだのが、短気はだめだということである。また、辛かった思い出は早朝練習であった。練習場と時間の制約から学校が始まる前7時頃に高井戸の練習場を貸してもらい、1時間打たせてもらったあと、ボールを拾って返して早朝練習は終わった。

また、ラウンドは毎月1回、月例と称して、立川国際、大根、常陽などいろいろなコースを回っていた。

24期(黒須)

私、黒須にとって現役当時一番楽しかったのはやっぱり合宿である。およそ1ラウンド昼食付で千円であった。尾崎の出身地、広島県の福山まで合宿に行ったこともあり、尾崎のお父さんの教会にも行った。他にも四日市などあちらこちらに行った。その頃も月例や合宿があり、医学部との対抗戦もあった。我々より上の先輩達は一橋大学などと対抗戦をしていたが、当時は無くなっていた。

辛い思い出として覚えていることがある。ツーサムマッチプレーのときに、私の相棒が居なくなってしまい、一対二でやらされたことである。1人で2人を相手にするのは、こんなに辛いものかと感じた。何とか最後のホールまで行ったのだが、結局負けてしまった。

小金井時代・・・26期(坂西)

大学に入学した当初はグリーンクラブに参加した。体育会の認定がなかったグリーンクラブは、

体育会を目指し、トレーニングで日吉のグラウンドを毎日十周させられるなど、とにかく厳しく練習していた。

学年が上がって、工学部は小金井に通う都合で、グリーンクラブを退部し、工学部ゴルフ部に入部した。当時先輩が4人しかおらず、試合も20期永田の代から始まった医学部戦しかなかった。

2年のときに、マッチプレーで私だけ勝った結果、私が主将に指名された。関など私より上手な部員がいたが、人数が少ないこともあり受けることにした。グリーンクラブの経験から、ゴルフ部を本当の体育会にしたいと思っていた。そこで小金井のグラウンドの隅にネットを張って練習環境を整え、さらにゴルフ部のPRをした結果多くの部員が入部した。当時は多磨霊園を走るなど、皆で体育会系を目指し活動していた。

さらに、グリーンクラブから依頼を受けて、白百合女子大学の指導を2年ぐらい行った。現役も是非やってほしい。楽しい思い出になるはずである。

ラウンドでは、昼食付き千円でラウンドできるよう交渉し、合宿は4泊5日、一万円ほどで実施した。費用を工面するために、三田会の各地区の会長にお願いしてご支援を賜ったこともある。

創立後10年

矢上移転・・・31期(天明)

我々の期が最初に矢上キャンパスを使った学生であった。31期から2年まで日吉、3・4年は矢上になった。ただし、矢上校舎工事の遅れから3年生の半年間だけ一部の実験日に限り小金井に通った。

当時は70年安保の時代で、日吉キャンパスでもヘルメットをかぶった学生活動家がアジ演説をしていた。そのような状況であったので、クラブへの勧誘は一切行われていなかった。私も当初ゴルフ同好会に入会していたが、同期の友人から誘われ工学部ゴルフ部に入部した。先輩達、同期の仲間と会ったのも5月の歓迎会が最初で、KEGCと部員の紹介新入部員挨拶後いきなり学年別一気飲み競争をしたことは驚きでもあり、また懐かしい

思い出の一つである。

我々が1年のとき、基礎トレーニングはほとんどせず、球打ちを多摩川丸子橋(神奈川側)練習場で行っていた。学生は一般の半額であるが、その代わり一定時間ごとに球拾いをするシステムになっていた。月に数回の利用だったと記憶している。

夏合宿が本格的なゴルフ場での初ラウンドとなり、合宿前に数日間小金井で先輩方と合同で練習した。多磨霊園でのランニング、小金井グランドの芝生部分を使つての柔軟体操、グラウンド端を使つてのアプローチ練習などであった。ここで初めて先輩から指導を受けたことを覚えている。

夏合宿は会津磐梯 CC で月曜日から金曜日までの5日間毎日2ラウンドであった。この期間中にアポロ11号が月面着陸に成功しテレビ放映されていたことを思い出す。一日の反省会終了後に部員全員でこの快挙を見守っていた。

当時、同期の仲間がどこからか情報を入手してきて、錦が原ゴルフクラブは一日キャディのアルバイトをすれば、バイト料はもちろん戴けるし、更に平日無料でラウンドし放題とのことで、仲間と合宿後夏休み中何度も通った。

我々の期から日吉、矢上に4年間いることになったため新入部員勧誘には十分に時間を取ることができ、結果として10人を超える後輩が入部してくれた。先輩からの指導を充分には受けることができなかったが、その分合宿での密度の濃い先輩との触れ合い、同期の団結が芽生え何とか次になげることができたことは大きな喜びであった。

我々の期が3年になったときの夏合宿は例年通り岩手県八幡平カントリークラブで5日間行った。その最終日(7月30日)あの全日空機零石衝突事件が起きた。爆発音の後、機体が落下するのを目の当たりにしたのが脳裏に焼きついており、今でも心が痛む。

対抗試合は同じ慶應大学の医学部ゴルフ部と行った。年一回の頻度で、幸い一度も負けることは無かったと記憶している。このころは理工系でゴルフ部を有している大学は少なく3回生のときに立教大学理学部ゴルフ部と友好ラウンドをした記憶がある。

OB名簿作成へ・・・34期(坂本、吉村、加藤)

我々の同期は6名であった。合宿での思い出で真っ先に浮かぶのがスイカと腕立て伏せである。

1年生の夏合宿で岡山の生野高原に行った。右に湧水のあるホールがあり、その水を飲みたくて、皆右に打った。また、朝コースに向かう途中、スパイクから火花が出ていたことを思い出す。まだ夜明け前、4時半頃に金属スパイクで歩くのだから、火花も出るのである。ただ、先輩方は車で行ってしまふ。その先輩方の名前は言えない(笑)。

対外試合は対法政戦と医学部戦しかなかった。あまり強い相手ではなかったと記憶している。

当時は部員が少なく、新人を確保するのが大変であった。次の代は3人しか居らず、部の危機を感じた。今もそうであるが、当時からゴルフは費用が掛かるスポーツとみなされていた。安くやらせてもらうために色々な工夫をした。ゴルフ場を手伝いに行つて安く回らせてもらったりもした。

OB会に関して言うと、最初は坂本がOB名簿を作りたいって言い出したのである。そこで我々の期が動き出し、下の年代を使つて皆にその種を蒔いた。彼らが名簿作りをする過程で、36期鈴木たちがOB会を組織しようとする動きにつながった。第1回のOB会が1977年に目黒雅叙園で開催された。我々が最初に種まきができたと自負している。

OB会創設・・・36期(鈴木)、37期(大塚、片岡)

鈴木(36期主将)が、吉村(34期)からOBの名簿整理の依頼を受けたのがOB会設立のスタートであった。当時の名簿作成には、謄写版(ガリ版)を使っていた。このOB名簿整理から、OB会設立へと動き出した。当時、先輩方全員の所在を把握することが難しく、確認のとれない方も多かった。自宅に直接お伺いし、訪問の主旨説明とOB名簿の作成の協力をお願いした。さらに、OB会設立の構想についての話を持ちかけたところ、前向きなご意見をいただいた。そこで、組織的に運営するために、OB全体で会議を行い議論していく方が良いということで、設立準備が始まりました。主に川崎進(26期)の会社の一室を借りて、賛同いただいたOBと現役の36期、37期が会合を重ね



第1回OB会 目黒雅叙園にて

た。会合後には、川崎先輩のご厚意で、ご馳走になったのは懐かしい思い出である。多くの先輩方に設立後の会の運筆方に設立後の会の運営、企画、ゴルフ場の手配等、尽力賜った。現役としては、本当に感謝の気持ちで一杯になった。

翌年2月に目黒雅叙園で第1回のOB会を開催し、大勢の方にご参加頂いた。当時の現役は全員学生服で参加した。その場で夏に親睦ゴルフ会とOB総会を行うという提案がなされ、今のOB会の原型ができあがった。

また、この年には法政大学、拓殖大学、東京工業大学等と連携して関東理工系リーグを設立した。前述の他に日本大学(生産学部と農獣学部)なども参加した。第1回大会は日刊スポーツで結果が報じられたが、レベルが低かったためか、第2回大会以降は報道されなかった。

創立後 20 年

合宿・OB会・・・43期(大林)

私の同期は2人であった。今では考えられないのであるが、夏合宿では暑い中でキャディバッグを担いで2ラウンドまたはそれ以上プレーした。

1年生は下手なので、右往左往のラウンドであった。やはり最初の夏合宿は1年生にとって一つのハードルであると思う。それでも、徐々にプレーできるようになって要領が分かってくると、こなせるようになり、とてもいい経験になると思う。また、ラウンドが終わってからのミーティングではスタンスを狭くしろとか色々言われるが、それも精神的にはきついのである。そのようなことも良い思い出である。



第1回OB会親睦コンペ 源氏山ゴルフクラブ



グロス優勝 中島君、ネット優勝 川崎君

私がまだ学生だったときに、OB会の幹事打ち合わせがあつて、鈴木(36期)らに呼び出された。そこは六本木の中華料理屋であつたが、北京ダックをたくさん食べさせてもらった思い出がある。また、学校を卒業した後も、このような会が継続しているのを素晴らしいと思う。

合宿・キャディ・・・45期(武田)

1年生の夏合宿はとてもきつく、夕方は寝たいのにまたコースに連れて行かれた。夏の暑い日だったので、プレー中はなるべく木陰を探していた。また、朝練を7時半から多摩川の河原でやっていた。私は頑張っていたのだが、同期の何人かは来なかった。その部員はゴルフ場でのキャディとして、試験の何日か前に駆り出されて大変な思いをしていたのを思い出す。

創立後 30 年

アメリカ遠征・・・50期(三瓶、山本)、51期(竹内)

理工学部体育会ゴルフ部として、一度きりのイベントとなってしまったアメリカ遠征は、1990年の夏休みに行われた。

その前年の1989年、当時主将を務めていた福井(48期)のもとに、「パーゴルフ」に掲載されていた当部の紹介記事をきっかけに、渡辺客員講師が連絡をくれたのが始まりであった。

渡辺先生から多くの提案をいただいた中の一つとして、当時交流を持っていたメリーランド大学への遠征の企画があった。荒牧部長にもご承諾をいただき準備を進めてもらった。そして、実現したのが、このアメリカ・メリーランド大学へのゴルフ交流訪問であった。

参加者は、48期木本、中村、49期白木(前主将)、50期三瓶(主将)、山本(会計&主務)、小野(副将)、51期竹内(次期主将)、大久保(次期副将)の8名であった。1990年8月開催のKEGC OB会総会にて多くの支援金をいただき、メリーランド大学へのゴルフ交流参加が承認された。

9月中旬、デトロイト経由でワシントンD.C.へ出発。空港到着後、メリーランド大学に隣接している格安ホテル(モーテル)へ向かった。

到着翌日から早速、大学内のゴルフコースでプレーした。コースは大学内にあるとは思えないくらい立派な林間コースで、日本では考えられない環境であった。しかし粘り気がある洋芝に雑草が混じったフェアウェイ、ラフともに体験したことのない芝質であったため、大変苦労した覚えがある。少しでもダフると、ボールが全く飛ばないので、それを意識すると薄目に当たる状態で、特に、ラフに入るとどのような球筋になるかわからず大苦戦した。毎晩行われたミーティングでは、反省の言葉も見つからず、とにかく、手探り状態で、改善する方法すら分からなかった。全員10打以上悪かったと記憶している。わずかであるが、日本人選手が海外に来て苦労するという現実を垣間見ることができたと自負したいところである。

練習場はというと、大学敷地内にあるにもかかわらず300ヤード以上の広さがあり、アプローチ場、パッティンググリーンも広々としたすばらしい練習場であった。そこで先方のゴルフ部コーチのパワーに大変驚かされた。練習場のボールは非

常に硬く、我々が打つと全く飛ばないにも拘らず、彼らは通常のボールのように飛ばしていたのが印象的であった。2日目から、ゴルフ部専属コーチに個人指導をいただいた。初めてアメリカン打法に触れることができたのは幸いであったが、ジャンボ尾崎等のゴルフ理論を雑誌でかじっていた我々の打ち方とは、大きくかけ離れているように感じた。その影響からか、多くのメンバーは、ますます迷うことになった。

少し慣れたころ、メリーランド大学の学生と一緒にラウンドすることになった。苦い思い出であるが、「ナイスパー」と喜んで声をかけると怪訝な顔されたので、それすら通じないのかと思ったら、どうもパーはナイスではないらしく、そんなかけ声はしてはいけないことが分かった。また、逆に自分はボギーなのに「ナイスパット」と声を掛けられ、「ノー。ボギー」と返したら、変な顔をされたことがあった。「ナイスパー」ではなく「ナイスパット」と言っていたようであった。

遠征後半には、だんだんと環境にも慣れ、三瓶、竹内はハーフ30台でラウンドするまで調子が回復し、ゴルフ部専属コーチにスコア改善を報告して帰路につくことができた。アメリカのコース、学生、そして、風土を感じることでできた、非常に有意義な10日間であった。

翌年4月、新入部員勧誘イベントで『君もアメリカゴルフ合宿に行こう』と大々的に宣伝し、例年になくたくさんのお有力新入部員が入部した。しかし諸般の事情で、ゴルフ交流は1991年以降開催されることはなく現在に至っている。

参加メンバーにとって、この遠征旅行は、間違いなく、大きなそして有意義な経験となり、社会人となった今の活動の支えの一つとなっていることは間違いない。このような大きな、そして、非常に有意義な遠征を実現させていただいたOBの皆様には感謝している。

源氏山GCと房総CC・・・52期(内田)

大照(主将)以下9名の同期がいた。夏と春の合宿は源氏山GCや房総CCにいて、1日2ラウンドを4日間やった。秋には源氏山ゴルフ場で2日間やった。

銀座で新歓・・・55期(秋山)

同期は12名いた。私の時代も内田(52期)のときとほぼ同じである。違うのは夏合宿の最初の3日間はストロークプレー、4日目はマッチプレーであった。また、トロフィーも用意していた。

私が入部した当初、新入生歓迎会は銀座で行われていた。有楽町駅銀座口から徒歩数分の貸し舞台に近所で買った食べ物を持ち込み、先輩方も呼んでいたのが結構な大人数だったと記憶している。先輩方の呑み伝説を聞きつつ、自分達も芸をしたり、早食い早飲み競争をしたりしてなかなか賑やかなイベントであった。

また、61期主将大江が発起人となって、三田会にいそべ焼きを出店した。いそべ焼きにした理由は、確か材料の用意が簡単で誰でも調理できそうだったからと記憶している。大江が事前準備から後片付けまでリーダーシップを発揮してくれたことが印象的であった。

創立後40年

部員減少・・・62期(清水)

多くの同期が入部したが、結局一人になってしまった。先輩方がいたので合宿はできたが、試合形式ではなく、自分のベストスコアを目標にしていた。合宿は、現役が4~5人であったため、あとはOBの方々にも参加していただいた。この部員数では月例会形式はできなかった。この頃、部員数が激減し、クラブ存亡の危機と言われた。

廃部の危機を乗り越えて・・・67期

(中部、藤原)

2005年度の部員は数名しかおらず、半世紀近く受け継がれた部の命運も風前の灯火であった。現役部員がいてこそその『部』という根源に立ち返り、「自らが入りたいと思う魅力ある部とは」をキーワードに皆で部の改革に取り組んだ。まず、ユニフォームの作成、部員勧誘チラシの外部発注による高品質化など部のイメージアップを図った。また、HP立上げ、頻繁なBlogの更新、四半期毎の強化合宿、月例会開催、関東理工系リーグ参加、本塾医学部戦再開など部の活性化に先輩・後輩の垣根

を超えて取り組んだ。そして、練習量向上のため、矢上から遠かったLINX新川崎に加え近場の梅里CCをメインの練習場としたのもこの時期であった。さらに、スキルアップの部分ではOBの方々の全面的な協力の下、合宿や練習で指導して頂いた。関東理工系リーグでは万年Bリーグであったが、遂にはBリーグで優勝し、入替戦を経て2007年にAリーグへ昇格することができた。

この年の秋、ゴルフ部は矢上祭に「広島風お好み焼き(広島焼き)」の屋台を出店した。広島出身の藤原(68期)が音頭をとり、部員全員で取り組んだ。材料の仕入れ、仕込み、調理、会計、呼び込みを部員が協力して成し遂げ、チームワークを感じるいい経験ができた。なお、2日間で約5万円程度の黒字となり、部費に還元することができた。

創立後50年

創部50周年記念・・・68期(岡村)

2009年2月にゴルフ部創部50周年ならびにOB会創設30周年を記念した祝賀会を交詢社において開催した。開催に当たり、より多くの方々に集って頂けるようOB幹事会と現役が協力して準備に取り組んだ。数百名に及ぶOB会名簿を全て見直し最新情報を反映させると共に、広く祝賀会開催を呼びかけた結果、当日は100名近くの方に御出席頂き盛大な式典となった。創部メンバーから現役まで半世紀もの世代を超えた部員同士の交流を通じてOBと現役のより強い絆が生まれ、部としての一体感を高めることができた。

現役の活動状況

体制と部員構成

2013年度

主将：森川高裕(経済学部3年)

主務：近藤真也(機械工学科3年)

会計：岡田哲弥(システムデザイン工学科3年)

2014年度

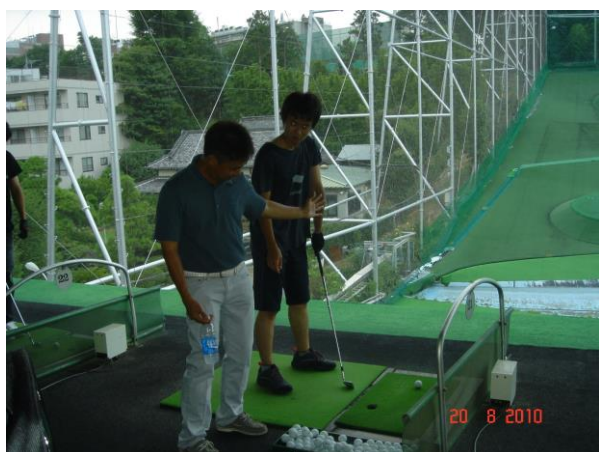
主将：原莉莎子(応用化学科2年)

主務：坂口虎太郎(経済学部2年)

会計：蓮本諒介(情報工学科2年)

2013年度 所属部員数

	男	女	理	商	経	法	文
4年	9	2	8	2	1	0	0
3年	7	0	4	1	1	1	0
2年	14	1	8	1	5	0	0
1年	9	0	6	1	1	0	1
合計	39	3	26	5	8	1	1



梅里カントリークラブでの練習 2010年8月.

練習状況

- ・ 練習：週4日(月、水、木、金)
梅里カントリークラブ(矢上より徒歩3分)
- ・ ロイヤルメドウゴルフスタジアム(栃木県)
- ・ 月例会：原則月1回(開催場所は関東各地)
- ・

合宿【2013年度】

- ・ 春合宿：3泊4日 房総カントリークラブ 千葉
- ・ 夏合宿：3泊4日 各月、異なるコースを回るようにする。

近年の対外試合戦績

- ・ 2012年関東理工系リーグ冬季大会(参加9校)
団体：3位
個人：兼松勇樹 6位
- ・ 2012年関東理工系リーグ夏季大会(参加9校)
団体：準優勝
個人：五十嵐丈浩 優勝、梅原良祐 3位



ゴルフ部創部50周年ならびにOB会創設30周年の記念祝賀会、銀座交詢社にて

- ・ 2012年度医学部対抗戦勝利

2013年度の抱負

- ・ 現役のマナー・技術向上
- ・ 今年度のOB会にてOBに勝つ
- ・ 関東理工系リーグ団体優勝
- ・ 医学部戦連覇
- ・

2013年度のOB会活動

- ・ 10月、鶴舞カンツリー倶楽部にて行われた。
- ・ OB会総会を交詢社でスペシャルゲスト・タケ小山プロを招き開催。



OB会 千葉鶴舞カントリークラブ 2013年10月

KEGC 小史

年度	人数	部長	小史
1960	13	森 為可 (電気工学科教授)	創部 初合宿(那須GC)
1961	9		青山学院戦/医学部戦に勝利
1962	6		朝練:高井戸練習場
1963	6		
1964	11		1 ラウンド
1965	5		
1966	7		白百合女学園にコーチ
1967	13		新潟紫雲GCで合宿
1968	9		
1969	12		
1970	8		
1971	4		矢上 1 期 夏合宿(八幡平) 全日空機墜落目撃
1972	11		
1973	8		
1974	6		OB名簿作成開始
1975	4		女子部員 2 名初入部
1976	8		第一回OB会開催 練習場:梅里/丸子橋
1977	6		関東理工系学生リーグ設立
1978	9	荒牧 国次(応用化学科教授)	
1979	3		
1980	4		文系女子部員入部
1981	9		カーボンシャフト登場
1982	6		理工系リーグ団体優勝、医学部戦に女子初参戦
1983	1		男子プロ競技のキャディを務める
1984	5		
1985	4		理工系リーグ 3 位
1986	7		理工系リーグ団体/個人優勝
1987	6		女子プロ競技のアルバイト
1988	4		
1989	2		医学部戦に勝利
1990	6		アメリカ遠征
1991	3		関東理工系リーグ1部 団体・個人優勝
1992	9		慶早戦の警備
1993	4	山下 久直(電気工学科教授)	
1994	5		
1995	10		
1996	0		
1997	3		
1998	1		初の女性主将誕生
1999	1		三田祭に磯辺焼き出店
2000	4		
2001	2		
2002	1		現役学生 OB会初優勝
2003	1		KEGCのHP開設
2004	0		廃部の危機
2005	1		
2006	7		医学部戦再開
2007	6		関東理工系リーグ 1 部昇格
2008	5		
2009	5	朝倉 浩一(応用化学科教授)	関東理工系リーグ1部リーグ制に
2010	4		KEGC記念誌創刊号「KEGC物語」発刊
2011	4		ユニフォーム新調
2012	10		関東理工系リーグ 団体準優勝 個人優勝
2013	8		文系主将誕生